

大阪文化財センター調査報告Ⅷ

都市計画道路松原～泉大津線建設予定地内  
遺跡試掘分布調査報告書

昭和50年 3月

財団法人 大阪文化財センター

は し が き

財団法人 大阪文化財センター  
理事長 加藤 三之雄

大阪府下に於ける宅地、道路等の諸開発は、経済性、機能性を主に考えて実施されてきましたが、近年、それらの無秩序な開発がもたらした各種の公害に対する住民意識の反発は、我々の生活環境を守り、自然を保護し、文化財を保存しようとする強い欲求となって現われてきています。

すぐれた生活環境、文化的な環境は、祖先が我々に残してくれた日本的な自然、歴史的な遺産を継承、発展させんとする我々の積極的な努力によって創造されるものであります。

したがって開発に際しては総合的視野に立った計画性が望まれるとともに、行政面での祖先伝来の遺産のより一般的なかたちでの住民生活への活用の方法確立も望まれるものであります。

今回実施した都市計画道路松原～泉大津線内遺跡試掘、分布調査は、当道路予定地内に含まれると考えられる大園遺跡及び観音寺遺跡の2遺跡の実態を正確に把握し、基礎資料を整備すること、その他当該道路予定地内に遺跡が存在しないかどうかをたしかめることを目的としたものであります。

調査を実施するにあたり多大の援助を下された大阪府土木部街路課及び大阪府特定街路建設事務所の関係各位に厚く御礼申し上げますとともに、調査に協力して下さった関係者諸氏に深く感謝する次第です。

昭和50年3月

## 例 言

- 1) 本冊子は、財団法人大阪文化財センターが、大阪府土木部街路課の委託を受けて実施した都市計画道路松原～泉大津線建設予定地内遺跡試掘調査及び分布調査報告書である。
- 2) 調査に要した費用（4,462,000円）はすべて大阪府が負担した。
- 3) 調査は、財団法人大阪文化財センター業務課調査室が担当し、昭和50年2月17日から、昭和50年3月31日まで現地で実施した。
- 4) 調査にあたっては、調査室長中西靖人を中心に、調査員国乗和雄、赤木克視、安井幸雄、木村宏史、山崎博の諸氏および調査補助員杉本二郎、寺川史郎、玉田隆の諸君の積極的な援助を受けた。  
また遺物整理作業は、調査とほぼ並行して実施し、整理調査員平松久美子を中心に作業員中西フキ、小山美砂子の協力を得た。
- 5) 本報告書の執筆は中西靖人、国乗和雄、山崎博が行なった。
- 6) 調査に際しては前田建設工業株式会社、押井工務店から多大の援助を受けた。
- 7) さらに遺跡の詳細等については大阪府教育委員会技師石神 怡氏より多くの教示を得た。記して感謝する。
- 8) 尚、大園遺跡西端部（高石市綾園6丁目）に於ける調査は、地元の旧地主仲尾 勝による悪質かつ執拗な妨害にあい、初期の目的を達成するには至っていない。したがって、この部分の埋戻しは実施出来なかったことを記すとともに、今後の全面発掘や、その後の工事に際しても今回同様の妨害が起り得る可能性があることを記し、関係者に注意をうながすものである。

## 目 次

はしがき

例 言

〔Ⅰ〕調査に至る経過

〔Ⅱ〕調査の目的及び方法

〔Ⅲ〕調査の結果

〔Ⅳ〕出土遺物

〔Ⅴ〕結 語

## 図 版 目 次

図版一 大園遺跡調査トレンチ }  
図版二 大園遺跡調査トレンチ }

図版三 大園遺跡トレンチ位置図

図版四 観音寺遺跡トレンチ位置図

図版五 都市計画道路松原泉大津線踏査による  
遺物散布地図

図版六 大園遺跡第2トレンチ平面実測図

図版七 大園遺跡第1、2、3トレンチ断面実測図

図版八 大園遺跡第4、5トレンチ断面実測図

図版九 大園遺跡第6、7、8、9トレンチ断面実測図

図版十 観音寺遺跡第1、2トレンチ断面実測図

図版十一 観音寺遺跡第3トレンチ断面実測図

図版十二 大園・観音寺両遺跡出土遺物実測図

## 〔Ⅰ〕調査に至る経過

大阪府特定街路建設事務所が建設を進めている都市計画道路松原～泉大津線は、その予定路線内に大園遺跡及び観音寺遺跡を含み、さらにその地理的、歴史的環境から考えるに周知されていない遺跡の存在する可能性が極めて強いと思われるところである。

このため、大阪府土木部街路課及び大阪府特定街路建設事務所は、大阪府教育委員会と協議をした結果、周知の二遺跡については、その範囲、埋没深度、遺構の有無、層位関係、遺物の量、遺跡の時期等を正確に把握することとし、それ以外の路線の内未着工部分については分布調査を実施することで一致した。そしてこれら一連の調査を財団法人大阪文化財センターが実施することについても両者は合意したのである。

この合意に基づいて大阪府土木部街路課、大阪府特定街路建設事務所、大阪府教育委員会文化財保護課及び財団法人大阪文化財センターは、調査の時期、方法、経費等について再度協議を行ない、四者合意の下で、財団法人大阪文化財センターは、大阪府との間に受託契約を昭和50年2月10日付で締結し、昭和50年2月17日より実際の現地調査に着手したのである。

## 〔Ⅱ〕調査の目的及び方法

今回実施した調査の目的は、第1章でも記したように、④周知された2遺跡（大園遺跡、観音寺遺跡）の範囲、埋没深度、遺構の有無、層位関係、遺物の量、遺跡の時期等を正確に把握することと、⑤予定路線内に周知されていない遺跡が存在するか否かを試しかめることであつた。したがって調査の方法も④については予定路線の外辺部に巾約100cm～120cmの試掘溝（トレンチ）を設定し、掘削することによって、包含層の有無をたしかめると共に、一部分を遺構面及至は地山面まで掘り下げた。しかしながら、トレンチ全域を遺構面まで調査することは、この様な極めて小規模な調査では何らその性格等についての理解が

出来ないばかりか、遺跡の部分的な破壊行為になりかねないことを懸念し、つとめて包含層上面にて掘削をとどめるよう留意した。

また⑧については、予定路線の内、既に工事に着手もしくは、工事が完了している部分をのぞいて残りすべてを踏査した。踏査は地表面を注意深く観察しながら遺物を採集することを中心とし、これらの遺物散布地を地図の上に正確にしるし、その密度によって遺跡の可能性のあるなしを判断する方法をとった。

### 〔Ⅲ〕 調査の結果

今回の調査対象地は、道路敷ということもあって細く長い地域であった。この対象地内で既に周知されている大園遺跡及び観音寺遺跡についてはその筋囲確認を、その他の地域については分布調査(踏査を主とした)を実施した。以下これらの結果を順をおって記す。

#### A) 大園遺跡

大園遺跡は、和泉市と高石市の市境い付近、国鉄阪和線北信太駅より西に広がる古墳時代を中心とした複合大集落遺跡である。当該遺跡は既に高石市の区画整理事業、建設省近畿地方建設局による第2阪和国道建設事業に伴なって各々大々的な発掘調査が実施され、古代和泉地方に於ける一大集落遺跡として、その重要性が明らかになりつつある。

今回の調査対象地は、このような大園遺跡の南端部にあたり、その範囲等については不明な点の多いところであった。

したがって当該道路予定路線全域にわたって調査を実施することが最も望ましいのであるが、和泉市域内に於ける区画整理計画が未解決であるためこの地域内の調査は出来ず、また高石市域にあつても現実に構造物が存在したり、買取済にもかかわらず悪質な妨害をくりかえす旧地主が存在したりしたために、未調査の部分がある。しかし、今回の調査は西端部、東端部は調査が可能であり、また中央部においても必要な部分は調査可能であったことにより、遺跡自身の

東西の拡がりは確実に把握することが出来たとともに、その埋没深度、層位関係、遺構の有無等についてはおよその判断を下すことは出来た。

以下当該遺跡内に設定した各トレンチについてその概略を順をおって記したい。

### 〈第1トレンチ〉

当該トレンチは松原～泉大津線が第2阪和国道と交わるところの東側、地籍高石市西取石七丁目に於ける当該道路巾員の北側に設定したトレンチである。

このトレンチは、周知されている大園遺跡の中心部に最も近い位置にあり、現状は休耕田である。

調査の結果によると、表土層(耕土)の下に茶褐色土層が認められ、この層から下約50cmが遺物包含層である。またこのトレンチの調査結果からみると、黄褐色粘度層の地山は、比較的起伏に富んでおり、地山面が高いレベルの地点は、後世の開拓により削平されてしまっている可能性が強い。尚、当該トレンチでは全域にわたって遺物包含層が認められ、溝等の遺構の存在も確認した。

### 〈第2トレンチ〉

当該トレンチは、第1トレンチの南側、巾員南端より3m程度内側に入ったところに巾1mで設定したトレンチである。

このトレンチに於いては、全体的に表土層下30cmで黄褐色粘土層の地山となり、機械掘削の際に部分的に地山が検出されるという上部堆積層が削平された状態であった。したがってトレンチの清掃作業の際に、ほとんど全ての遺構が検出され、もはや掘り下げざるを得ない状態になった為、このトレンチについては全ての遺構を掘削し、調査することにした。

包含層は4層存在し、耕土層直下の包含層は灰褐色粘質土層であり瓦器土師器等の細片を包含するものである。その下は灰褐色粘質土層であり、須恵器、土師器片を含む層であるが時期的には古墳時代後期から平安時代までを包含しているためおそらく整地層であろう。第3層は灰茶褐色土層であり、その下に灰褐色粘質土層がある。この2層の包含層は、ともに古墳時代の須恵器、土師器を包含し、黄褐色粘土層の地山に遺構を残している時期である。

検出された遺構は、大小の柱穴と5条の溝であるが、これらの遺構の性格は今回の調査では判断出来なかった。

### 〈第3トレンチ〉

当該トレンチは、第1トレンチの東側、第2トレンチの北東側、地籍高石市西取石七丁目における当該道路巾員の北側に設けたトレンチである。

調査の結果は、表土層(耕土)の下に灰褐色粘質土層が認められ、この層を含む下約30cmが遺物包含層でトレンチ全域にわたって遺物包含層が認められた。

### 〈第4トレンチ〉

当該トレンチは、松原～泉大津線が国鉄阪和線と交わるころの西側、地籍高石市西取石七丁目における当該道路巾員の南側に設定したトレンチで現状は休耕田である。

調査の結果は、表土層(耕土)の下に灰黄褐色砂質土層が認められ、この層から下約20cmにわたって遺物の包含がみられ、それはトレンチの全域に認められた。

### 〈第5トレンチ〉

当該トレンチは、第3トレンチの北側で地籍は、高石市西取石七丁目である道路巾員北端より少し内に入ったところに長さ140m余り幅1mで設定した長大なトレンチである。

調査の結果は表土層(耕土)下において灰黄褐色土層と灰黄褐色砂質土層の遺物包含層が厚さ約20cmで交互にトレンチ全域にみられ西端部においては灰黄色粘土層の地山のレベルが高く包含層の薄いところが見られる。

### 〈第6トレンチ〉

当該トレンチは、松原～泉大津線が国鉄阪和線と交差する東側、第4トレンチの東側にあたり、地籍は高石市取石五丁目と道路巾員の南側に設けた。

調査の結果は、トレンチを平均40cm、部分的に70cmあまり掘り下げ、西隣の第4トレンチで地山とみられた黄褐色粘土層まで掘り下げたが、遺物、遺構などはみられず遺跡とはみなせなかった。



#### 《第7トレンチ》

当該トレンチは、第6トレンチの南側で地籍は高石市取石五丁目である。道路巾員南端より少し内側に幅1mで設定した。

調査の結果は、第6トレンチと同様に部分的に掘り下げたが灰黄褐色粘土層の上部及び下部においても遺物、遺構はみられなかった。

#### 《第8トレンチ》

当該トレンチは、松原～泉大津線が府道信太、高石線と交差する東側に設けた小さなトレンチで地籍は、高石市綾園六丁目である。

調査の結果は、表土をはがしたところ地山と思われる黄褐色砂礫層がすぐみられ遺物、遺構共に見られなかった。

#### 《第9トレンチ》

当該トレンチは、第2阪和国道と南海本線にはさまれたあたりで朝日放送ラジオの南に位置する。地籍は高石市綾園六丁目道路巾員北端より少し内側に幅1mで設定した。

調査は、トレンチを平均40cm、部分的に地表から1m余り下げた結果、表土と地山とみられる灰白色粘土層の間には遺物がみられ、それはトレンチ全域にわたっている。

#### 《第10トレンチ》

当該トレンチは、第9トレンチの東隣に設け地籍は高石市綾園六丁目、泉大津市綾井にわたる長大なトレンチである。調査の結果は、トレンチ全域で遺物を検出し写真を撮った段階で妨害され、断面図は書けなかった。

#### 《第11トレンチ》

当該トレンチは、第9、10トレンチの南側に設け地籍は泉大津市綾井、和泉市太町、高石市綾園六丁目にわたるトレンチである。

調査の結果は第10トレンチと同様に遺物が全域でみられたが、写真撮影の段階で妨害され断面図は書くことができなかった。

## B) 観音寺遺跡

当該遺跡は、和泉市上代町に所存する、この地は、最初3年銘のある画文帯神獸鏡を出土した黄金塚古墳が存在し、また観音廃寺跡（一部は観音堂として現存）と呼ばれる寺院跡としても歴史的に著名なところである。しかしながら現在にいたるまで屋瓦や土器類を地表面で採集する以外これといって学問的メスの入れられたことのない処女地であった。

今回の調査対象地は、このような歴史的環境にある観音寺遺跡の中心部、現存する上代観音寺の北側にあたり、地表面に多数の瓦の散布が認められる地域であった。このことから保元三年十二月三日の官宣旨に記された信太寺との関係も注意をひくところであった。

以下遺跡内に設定した各トレンチ毎にその詳細を述べることにする。

### 〈第1トレンチ〉

当該トレンチは、松原～泉大津線が国鉄阪和線と交差する地点より東方1.6kmあたりで地籍は和泉市上代町、現状は田圃である。また道路予定地内でのトレンチの位置は道路巾員の北端より少し内側に設け、周知の遺跡である観音塚廃寺跡の南端にあたる。

調査の結果は、表土(耕土)の下に褐色土層を基本とする包含層が3層みられ、部分的に掘り下げた地点において、表土下約70cmあたりで地山とみられる灰黄色粘質土層が現われた。

### 〈第2トレンチ〉

当該トレンチは、第1トレンチの東隣にあたり地籍は和泉市上代町である。このトレンチは上代町の集落から張り出したゆるやかな尾根線をたち切ったような形になり、現状は畑である。

調査の結果は表土(耕土)、又その下層に渡ってトレンチ全域で遺物の包含がみられ西端では幅1m程の溝も存在した。なおトレンチ全体の起伏が激しく表土が現在まで耕作されていたので攪乱が所々でみられた。

### 〈第3トレンチ〉

当該トレンチは第1.2トレンチの南側に位置し、道路予定地内の南端より北側に2m程入った所に設けた。地籍は和泉市上代町で東方は赤はげ池に続く田甫、そして中央から西は畑で尾根をたち切ったような形である。

調査の結果は田甫部分においては表土下20cmあたりから遺物包含層が全域にわたりみられた。又尾根上のトレンチでは第2トレンチと同様に起伏が激しいがトレンチ全体で表土(耕土)からも遺物がみられその下層からも多量の遺物が含まれていた。

## C) 分布調査の結果

### 〈鶴田池〉

鶴田池は行基年譜聖武天皇十四年、天平九年丁丑の条に鶴田池院二月九日起、在和泉國大島郡丸山田村とあり、また聖武天皇十八年、天平十三年辛巳の条には、鶴田池、在大島郡早部郷と記されているように、その築造は天平九年ごろと極めて古く、また歴史的にも有名な行基の土木事業の一つの遺産としてその価値は高いものであり、ここに遺跡として認めた次第である。

### 〈第1地点〉

第1地点は、地籍堺市平井で当該道路と泉北2号線が交差する西側、旧石津川右岸になる。表採遺物は須恵器の坏及び甕で7世紀初頭のものと思われる。なお現状は平坦地であり、大阪府教育委員会の試掘調査の時に地表下3mから遺物が出土している。

### 〈第2地点〉

第2地点は、地籍堺市太平寺で石津川と石津川支流の和田川にはさまれた丘陵の東部に位置し現状は田畑である。土器の散布は東西300mの広範囲に渡り東部では弥生時代中期の土器が4片、須恵器の坏、甕が4片そして土師器を1片拾った。又西部では平安時代の須恵器の坏及び甕、それに土師器を拾った。なお弥生時代の土器片が見つかったことは当地点の北方400mにある周知の遺

跡、万田遺跡と一連のものと思われる。

〈第3地点〉

第3地点は、地籍、堺市菱木で和田川と府道別所草部線にはさまれたなだらかな丘陵に位置し現状は田畑である。

表採遺物は年代不明の須恵器及び土師器である。

〈第4地点〉

第4地点は、当該道路と和田川が交差する両岸で地籍は堺市菱木、現状は田畑と荒地である。表採した遺物は年代不明の須恵器、土師器及び瓦がある。

〈第5地点〉

第5地点は、当該道路が信太山丘陵先端部を横断している東端部にあたり鶴田池の西から丘陵端部まで土器が散布し、地籍は堺市草部である。表採遺物は6世紀頃のものと思われる埴輪、同時期頃の須恵器、そして奈良時代の須恵器の坏蓋及び甕、また鎌倉時代の瓦質土器である。

## 〔IV〕 出土遺物（大園遺跡）

OS1（須恵器杯蓋）口縁径12.3cm 器高3.7cm

内外面、灰白色を呈すが口縁部については暗灰色を呈し、焼成は良好である。内外面とも仕上げは水引きである。

OS2（須恵器杯蓋）口縁径14.5cm 器高4.3cm

外面は暗青灰色、内面は赤紫色を呈し、焼成は不良であり、特に内面については色からわかるように表面に比較して焼きが悪い。天井部（外面）はヘラ削りであるがその他は内外面とも仕上げは水引きである。

OS3（須恵器・タコ壺）口縁径3.7cm 器高9.4cm

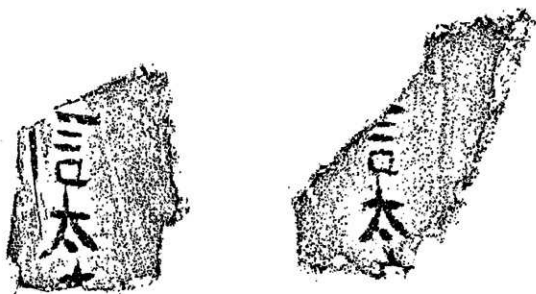
内外面とも灰白色を呈し、焼成は堅緻であり、外面については部分的に自然釉の付着がみられる。紐通しの孔は棒を突刺して穿孔したものである。又、紐通しの突出部は厚い底部より引き出して成形したものと思われ指圧痕が多数残存している。なお、内外面ともナデ仕上げである。

OS 4 (須恵器甕) 口縁径13.7cm 器高21.0cm 体部最大径19.5cm

内外面とも暗青灰色を呈し、焼成は堅緻である。外反彎曲している口頸部に装飾はないが、口頸部から体部にかけてカキ目がある。又カキ目の中に部分的に叩きの痕がみられるので叩きを施した後カキ目を入れたものと思われる。底部は最後に付けたものらしく円状の継ぎ目が残し、外面は平行叩き内面は同心円の叩きが鮮明であり、とがりぎみの丸底となっている。体部(内面)は水引きで仕上げられている。

OS 5 (土師器高坏) 口縁径17.4cm 器高12.9cm

赤褐色を呈すが、脚部の上部に継ぎ目の部分が認められる。脚部より上の坏部等は淡赤褐色を呈しており焼成は良好である。又胎土は精良であり砂粒を含んでいる。坏部と脚部外面については表面の摩滅が著しく、詳細は不明である。脚部内面は叩きと指圧痕が残存している。



第2図 信太寺刻印平瓦

## (観音寺遺跡)

### K N 1 (須恵器) 口縁径10.3cm 器高2.7cm

灰白色を呈し、焼成は著しく不良である。ゆえに、内外面とも、多分仕上げは水引きと思われるが剥落が激しく詳細は不明である。又胎土の中に砂粒が多く混入されている。

### K N 2 (須恵器坏) 口縁径12.4cm 器高3.7cm

内外面とも淡青灰色を呈し焼成は堅緻である。高台を持つ坏であるが高台はあまり高くなく、わずかに外方へふんばっている。又、底部(外面)の部分には叩きがみられ、内外面とも水引きで仕上げられている。

### K N 3 (須恵器坏) 口縁径15.3cm 器高3.7cm

内外面とも灰白色を呈し、焼成は不良である。体部及び口縁部の外傾度が大きく、底部は単に丸くおさめている。又底部(外面)は横ナデが施され、その他の部分は内外面とも水引きである。

### K N 4 (須恵器) 口縁径20.5cm 器高不明

内外面とも暗青灰色を呈しているが部分的に自然釉が付着しており焼成は堅緻である。口縁部から頸部にかけてのみ実測が可能であり、その部分に関しては水引きで仕上げている。

### K N 5 (土師器壺) 口縁径20.2cm 器高不明

内外面ともに赤褐色を呈し焼成は軟弱であり胎土には砂粒が混入されている。外面は口縁から頸部にかけてナデがみられ肩部から体部に細い刷け目が認められる。

内面に関しても、口縁から頸部にかけてナデがみられ、体部には多くの指圧痕

と思われるものが残存している。なお底部は存在しないため詳細は不明である。

#### KN6 (土師器) 口縁径25.6cm 器高不明

内外面とも赤褐色を呈し、焼成は軟弱であり、胎土に多くの砂粒を混入している。体部(外面)には荒い刷け目が施されている。内面については、頸部に指圧痕らしきものが認められ多分接合部分と思われる。体部には、刷け目と思われるものが残存しているが、摩滅が著しく詳細は不明である。

#### KN7 (須恵器) 口縁径20.0cm 器高不明

外面は暗灰色、内面は青灰色を呈し頸部には自然釉がみられ焼成は堅緻である。内外面とも水引きで仕上げられているが頸部と体部を接合したときのものと思われる横ナデの部分が内面にみられる。

## 〔V〕 結 語

今回実施した分布調査、試掘調査の結果をまとめる前に、和泉市、高石市、堺市という土地について若干述べておきたい。

上述の3市を含む和泉地方は、先土器時代の昔から、縄文時代、弥生時代を経過して古墳時代、歴史時代に至るまで人間の生活の場、文化の中心としての地位を保ってきている。したがってこの地方では、どこでも遺跡である可能性があり、またどこが遺跡であっても不思議ではない地域である。したがって、周知されている遺跡のみでもその稠密度は高く、いかに歴史的、学問的に重要な地域であるかが理解できるものである。

このような地域であるが故に、今回の調査対象地もおのずと我々の関心呼びさまさずにはおかなかった。事実調査結果からみるに、大園遺跡については、東は国鉄阪和線から、西は、既に下部工事が完了している南海本線付近にまで広がる大集落であることが判明したし、時期的にも比較的長時間にわたって人間の生活の舞台であったことも明らかとなった。さらに観音寺遺跡についても、

今回の調査対象地として旧状のまま保たれていた部分にはすべてにわたって遺物包含層が存在し、実際の遺跡の範囲は既に工事の着工をみている部分にまで広がっていることは確実である、さらに、その他の予定路線に於ける未知の遺跡としては、先述の鶴田池をはじめとして、5ヶ所の遺物散布地が存在し、これらの散布地が、未知の大集落跡である可能性は極めて強いといわざるを得ない。

したがって当該道路(都市計画道路松原～泉大津線)の建設工事の発注については、十分に注意を払い、上述の遺跡、散布地等の取扱いは慎重にも慎重を期してほしいと考える。



版 圖



第2トレンチ西から



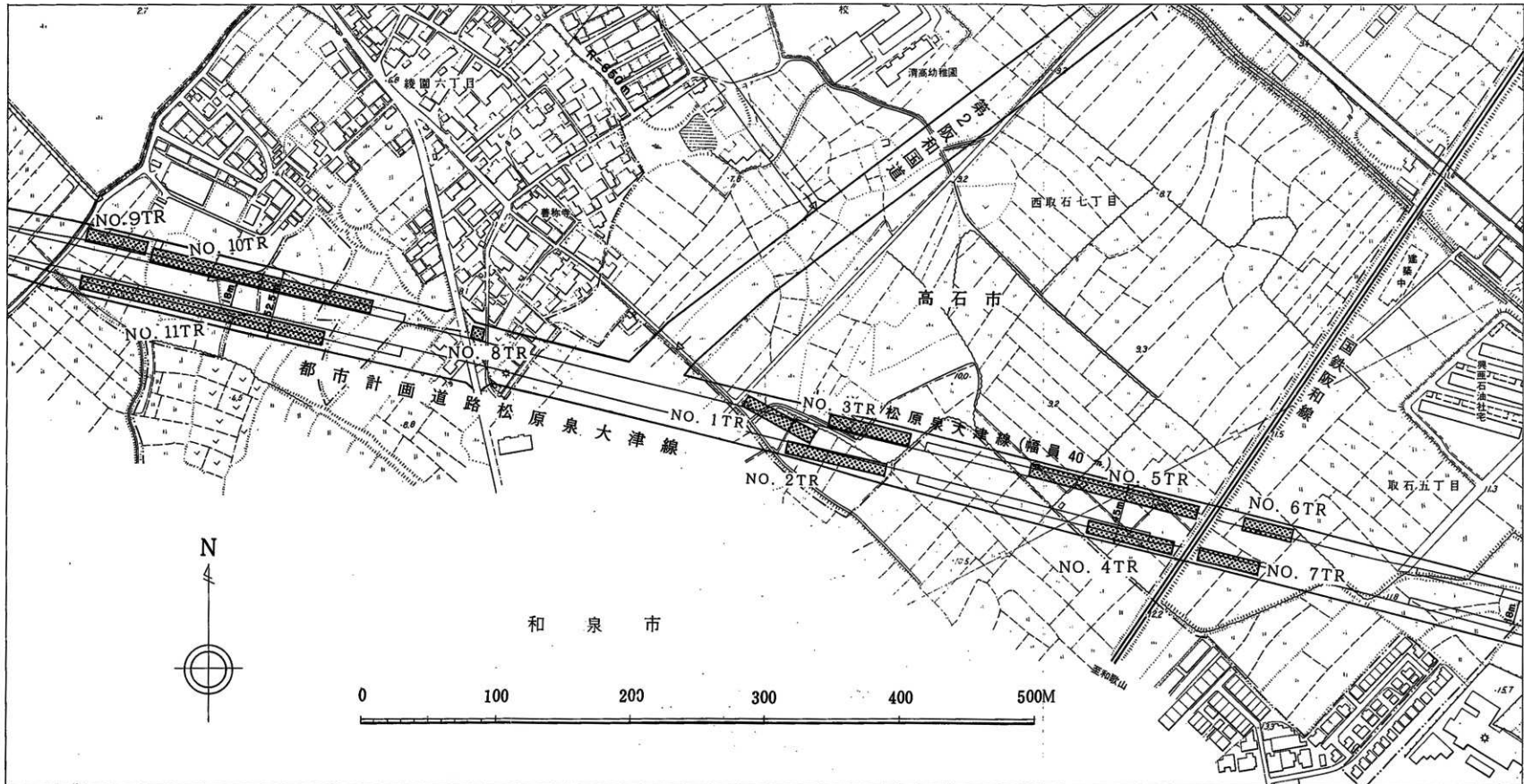
第2トレンチ溝内遺物出土状態

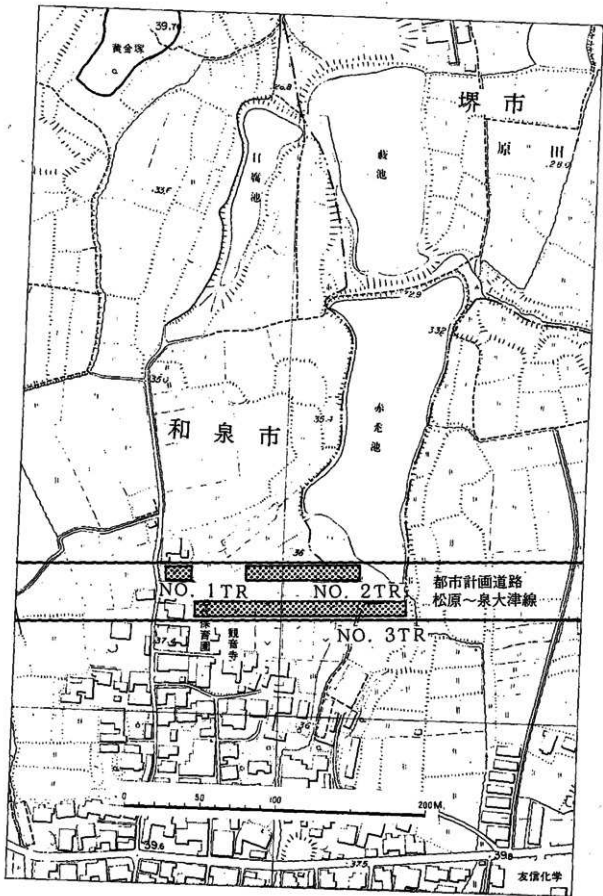


第5トレンチ西から



第4トレンチ西から

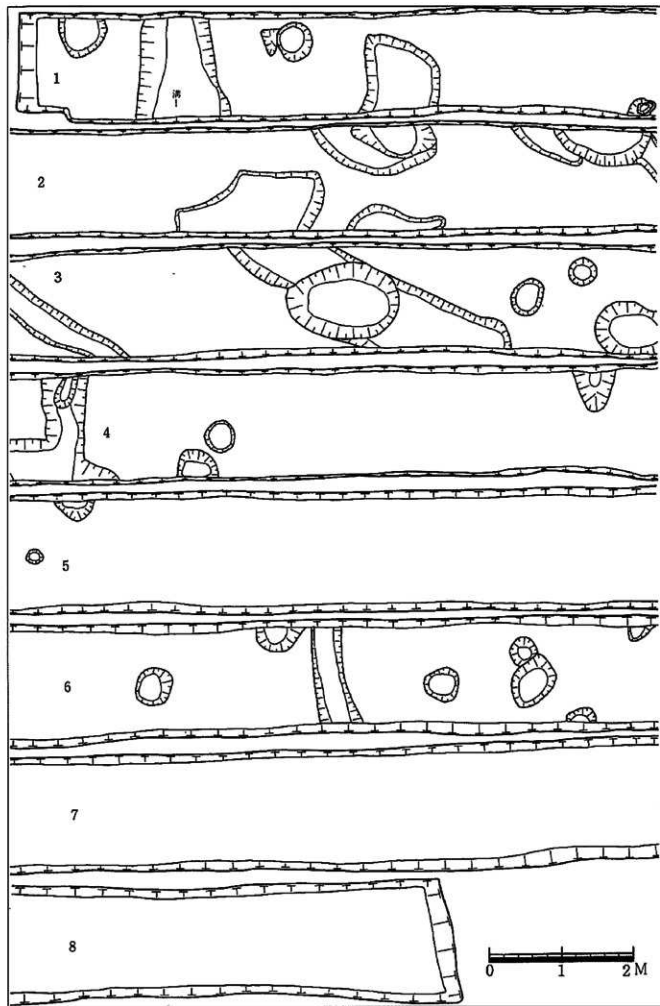




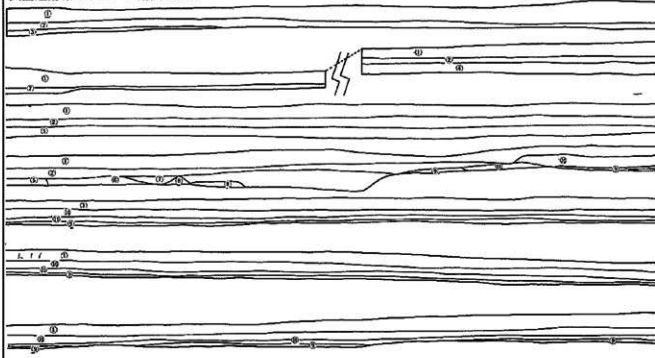
友信化学



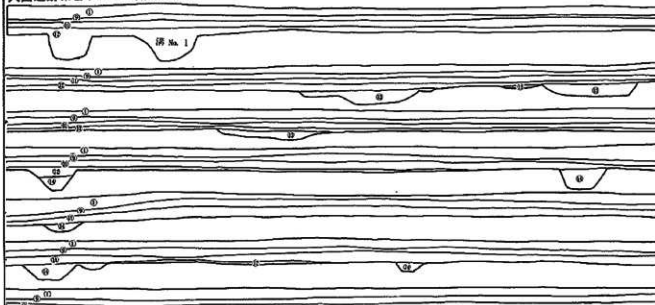
図版五 都市計画道路松原泉天津線踏査による遺物散布地図



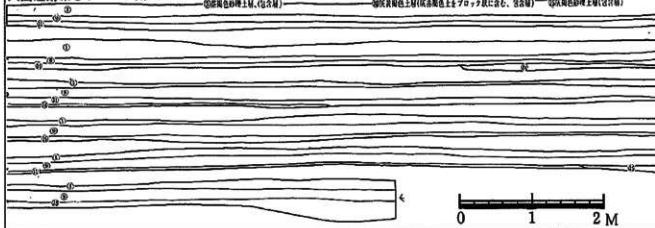
大園遺跡第1トレンチ断面実測図



大園遺跡第2トレンチ断面実測図



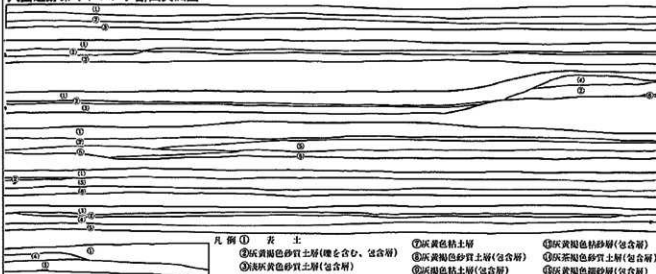
大園遺跡第3トレンチ断面実測図



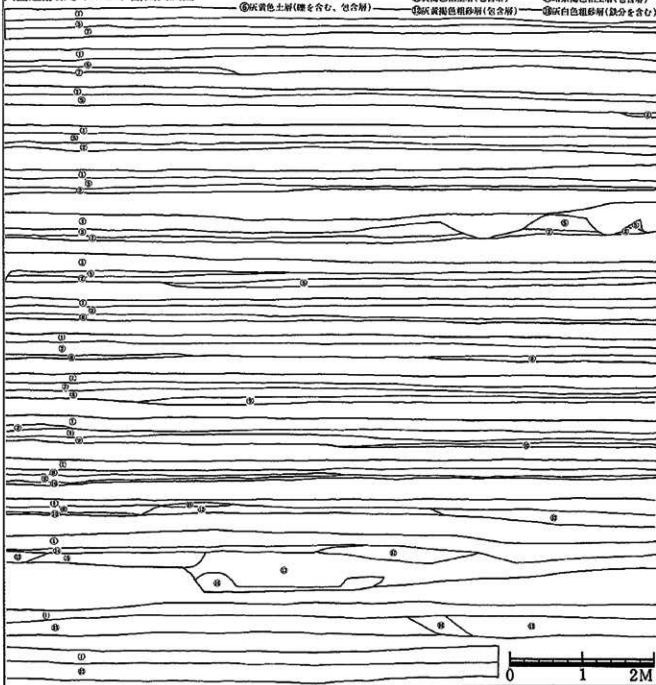
- |                               |                              |              |
|-------------------------------|------------------------------|--------------|
| ① 土                           | ④ 赤褐色土層(赤褐色をプロップ状に含む、(包含層)   | ⑧ 灰褐色土層(包含層) |
| ② 赤褐色土層(包含層)                  | ⑤ 赤褐色土層(赤褐色土層をプロップ状に含む、(包含層) | ⑨ 灰褐色土層(包含層) |
| ③ 赤褐色土層                       | ⑥ 赤褐色土層(赤褐色土層をプロップ状に含む、(包含層) | ⑩ 灰褐色土層(包含層) |
| ④ 赤褐色土層(上部に赤褐色土をパンF状に含む、(包含層) | ⑦ 赤褐色土層(包含層)                 | ⑪ 灰褐色土層(包含層) |
| ⑤ 赤褐色土層(包含層)                  | ⑧ 灰褐色土層(赤褐色土をプロップ状に含む、(包含層)  | ⑫ 灰褐色土層(包含層) |



大園遺跡第4トレンチ断面実測図



大園遺跡第5トレンチ断面実測図



凡例 ① 表土

②灰黄褐色砂質土層(礫を含む、包含層)

③灰黄褐色砂質土層(包含層)

④灰黄褐色砂質土層(包含層)

⑤灰黄褐色土層(包含層)

⑥灰黄色土層(礫を含む、包含層)

⑦灰黄色粘土層

⑧灰黄褐色砂質土層(包含層)

⑨灰褐色粘土層(包含層)

⑩茶褐色粘土層(包含層)

⑪黄褐色粘土層(包含層)

⑫灰黄褐色粗砂層(包含層)

⑬灰黄褐色粘砂層(包含層)

⑭灰茶褐色砂質土層(包含層)

⑮灰黄褐色細砂層(包含層)

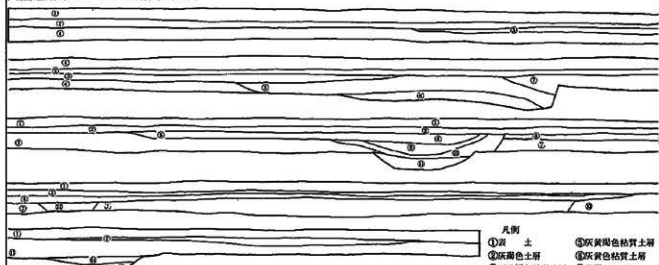
⑯灰褐色粘土層(包含層)

⑰暗茶褐色粘土層(包含層)

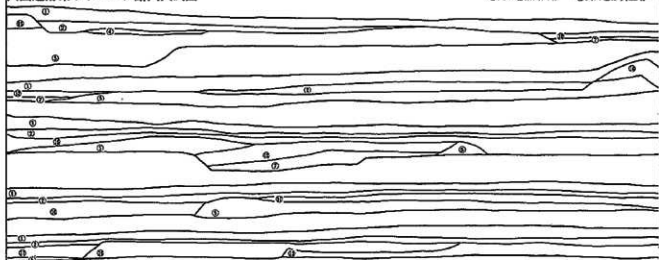
⑱灰白色粗砂層(礫分を含む)



大園遺跡第6トレンチ断面実測図



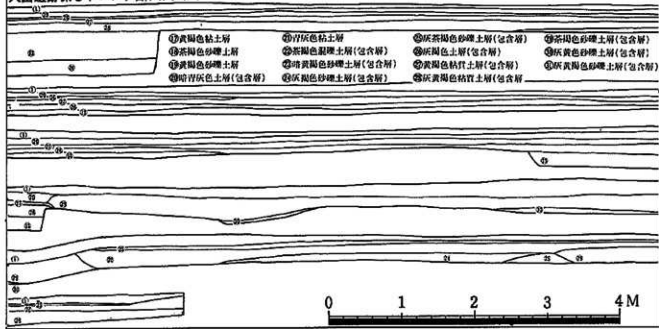
大園遺跡第7トレンチ断面実測図



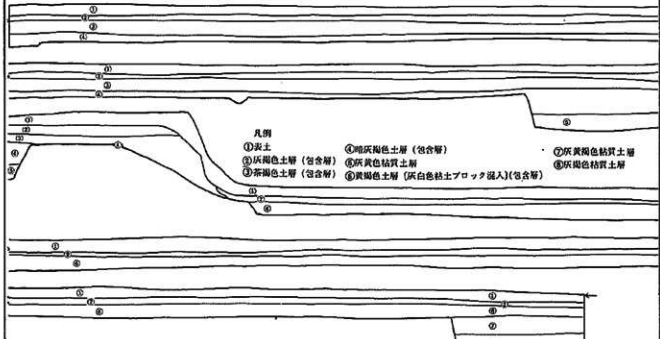
大園遺跡第8トレンチ断面実測図



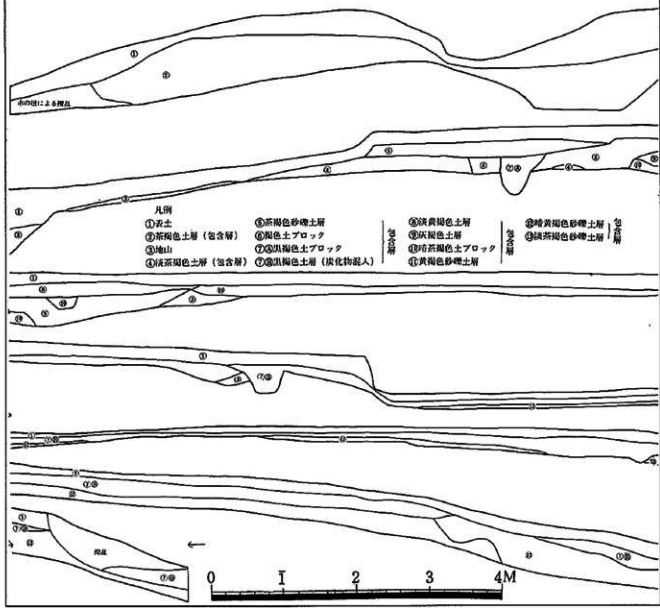
大園遺跡第9トレンチ断面実測図



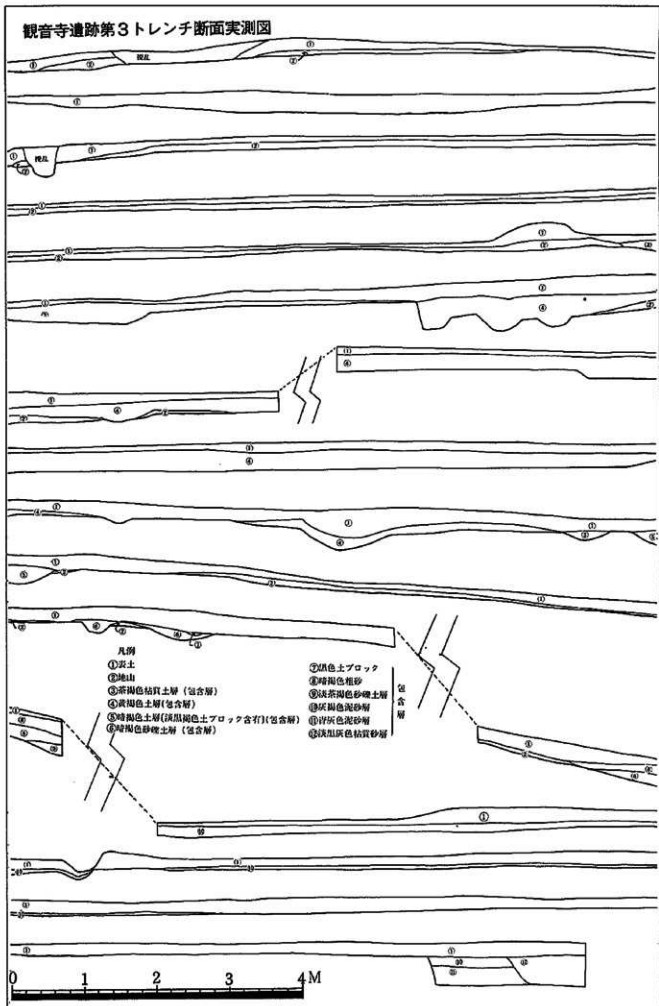
観音寺遺跡第1トレンチ断面実測図

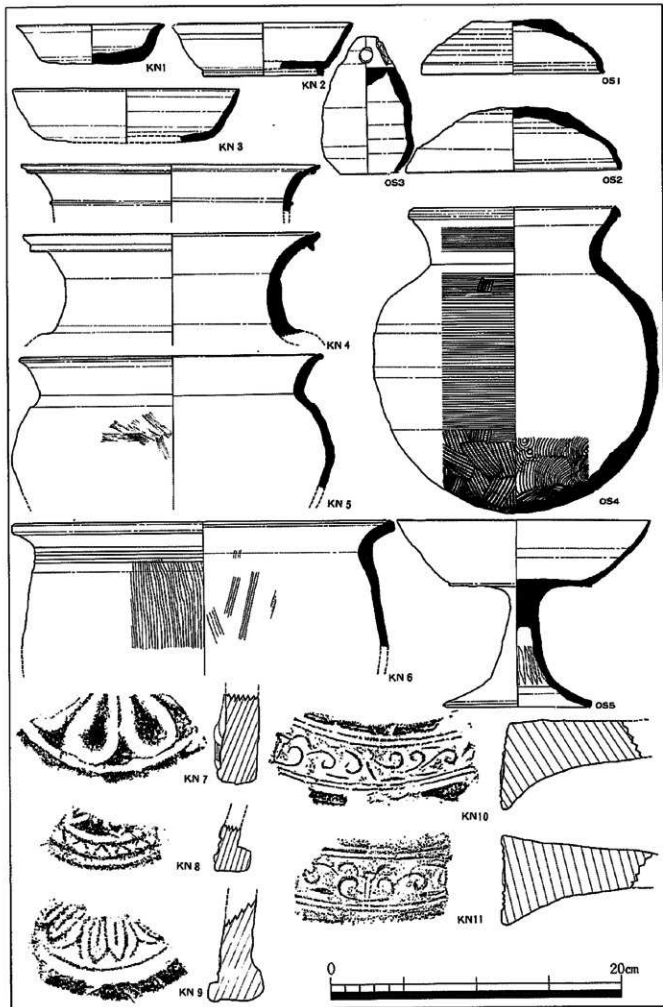


観音寺遺跡第2トレンチ断面実測図



観音寺遺跡第3トレンチ断面実測図





財団法人	
大阪府埋蔵文化財調査会	
第 〇	
( 04570 )	

大阪文化財センター調査報告集Ⅱ  
文化財調査報告集'74

昭和50年5月10日発行

著者 大阪市東区大手前之町  
財団法人 大阪文化財センター調査室  
発行者 大阪市東区大手前之町  
財団法人 大阪文化財センター  
印刷者 大阪市北区川崎町38番地  
ナニワ印刷株式会社  
大阪市東成区深江南2-6-8  
株式会社 中島弘文堂印刷所